

相談課 便り

岡山県立岡山朝日高等学校
教育相談課
令和2年8月発行



* 第62号

短かった夏休みが終わり、いよいよ2学期が始まりました。新聞やテレビでは、連日、熱中症とコロナに関するニュースばかりですが、朝日高校では例年のように朝日祭の準備が始まりました。マスクやソーシャルディスタンス、適切な休憩と水分補給などなど気をつけなければならないことがたくさんありますが、それでも教室や廊下に段ボールやベニヤ板が置かれ、忙しそうに行き来している生徒達をみると、なんとなくうれしく、うきうきしてしまいます。叱られても嫌みを言われてもお構いなしで、学校祭の準備に明け暮れていた自分自身の学校生活を思い出すからでしょうか。例年、気持ちがぶつかり合ったり、涙が流れたり、授業中においては目が開いていなかったりと大変な準備期間になりますが、朝日祭のもつ特別な雰囲気、今年も学校にエネルギーと笑顔、集団としての成長をもたらしてくれることを信じて、生徒と共に乗り切っていきたいと思えます。

1学期の相談事業利用状況について

「思春期サポート事業（スクールカウンセラー 大西由美先生）」と「こころの健康相談（精神科校医 千田真友子先生）」は6月に学校が再開してから利用が増えました。新しい学年での学校生活への不安、人間関係への不安、学校に行かなければならないことに関するプレッシャーなどからカウンセリングを希望されたと考えられます。また休業中にご家庭で様子をよくみていただいたこと、学校側も体調を含めた変化に注意していたことがカウンセリングをすすめるきっかけになったと考えられます。

2学期の相談事業予定について

夏休みが短かったことでリフレッシュが充分出来ていない、思うように学習の挽回が出来ていない、また朝日祭の準備などで級友とうまくいかないなど、悩みや不安を抱えることも考えられます。ぜひ、担任、相談課までご相談下さい。カウンセリングについては以下の日程になっています。予約が必要ですのでご連絡下さい。

★思春期サポート事業

9月17日（木） 10月7日（水） 10月26日（月）
11月16日（月） 12月14日（月）

★こころの健康相談

9月30日（水） 11月25日（水）



1学期の終業式にはこのようなカードも全生徒に配付しています。

岡山県青少年総合相談センター
 ハートフルおかやま110
 その悩み！
 解決できないときは
 相談を！

電話でも
メールでも
いいよ!!

総合相談窓口 秘密は守ります。 (岡山県「もっちゃんらっち」)
TEL (086) 224-7110




QRコードですぐにメール相談

総合相談窓口
 TEL (086) 224-7110
 E-mail: sodan110@po1.oninet.ne.jp

青少年に関するどんな相談でもOK。
 高校中退に関する相談に対応する
 専任コーディネーターもいます。

教育相談
 TEL (086) 221-7490
 いじめ、不登校、友人関係、学校に
 関することなど。

進路相談
 TEL (086) 224-1121
 不登校や中途退学した方が、
 進学や転入・編入を希望するときなど。

子どもほっとライン
 TEL (086) 235-8639
 E-mail: kodomo@fine.ocn.ne.jp

学校のこと、家庭のこと、友人のこと、
 自分自身のことなど、学生ボランティア
 が相談に対応しています。

すこやか育児テレホン
 TEL (086) 235-8839
 E-mail: sukoyaka@po1.oninet.ne.jp

子育ての悩みや不安について。

ヤングテレホン-いじめ110番
 TEL (086) 231-3741
 E-mail: youngmail@pref.okayama.jp

いじめ、非行、家出など、少年に
 関する相談。

24時間子供SOSダイヤル (無料)
 TEL 0120-0-78310

24時間対応
 いじめ相談などにも対応しています。

2020.7




千ク千ク、カタカタカタ

永田 宏子

一生続けられる趣味をもつ、など高校生の時には考えてもみななかった。だが、いい年齢になって、趣味が人生を充実させるけっこう重要なファクターであることに気づく。世界史の教員なのでもちろん歴史は好きだ。今でも、歴史に関する本を読むのは楽しいし、感動もする。しかし、これはちょっと趣味とは言いがたい。やっぱり生業の一環なのだ。

幼いころからの自分を振り返ってみて、好きなことの芽は小学校卒業までに自分の中に根付いていたように思う。運動は今も昔も大好きだが、小学校に入学する前に毎日3本ずつ注射を打つ日々を送っており、ちっとも信じてもらえないが私は身体が弱い。スポーツは好きだが本気ではできなかった子ども時代、もう編み物は始めていた。小学生のころ、祖母に教えてもらって4本棒針を使って手袋を編んだ。母が購読していた『マダム』という雑誌の後半部には服の製図が載っており、見様見真似で製図し余り布をもらってワンピースを縫った。が、悲しいかな「縫い代」というものを知らず、できあがっても着ることができなかった悔しさは今も記憶に鮮明だ。ともあれ、どうも私はチマチマしたことが好きらしかった。「そんな部活があるのか」と驚かれるが、高校時代は機械編み部所属。大学時代には、寮の先輩に編み物の達人がいて、教えてもらいながら何枚もセーターを編んだものだ。卒業旅行の写真には、自分で編んだカウチン柄のフード付きコートを着る私が写っている。



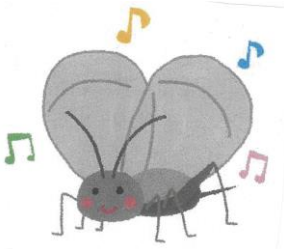
40代の後半にふとしたことからビーズを習いに行くことになり、けっこうたくさんアクセサリを作った。仕事で使ったり、人にプレゼントしたり。香港や上海に旅行したときには、問屋街での素材探しが楽しかった。そしてここ数年は、やっと手に入れたミシンを使っての服作りを楽しんでいる。休みの日に布に向かっていると、あっという間に時間が過ぎる。肩は凝り部屋は糸クズだらけになるが、できあがったときの爽快感といたら！先人の知恵の塊である服作りはワクワクすることばかりだ。まだ初心者域を出ないが、東京の日暮里、大阪の船場はディズニールランドやUSJよりよほどのこと楽しい。願わくは老眼がこれ以上進まないように。でも、こればかりはねえ。

すずむし

松北高行

例年にも増して暑い毎日が続いています。一ヶ月程前までは健康増進のため夕方の涼しい時間帯にウォーキングを楽しんでいましたが、最近では熱中症予防のため家の中でおとなしくしています。

そんなわが家について先日「すずむし」がやって来ました。やって来たと言っても、ご近所の方が卵から孵化させ育てられたものを息子が頂戴してきました。



聞くところによると、その方（ご主人）は、一昨年、昨年と孵化に挑戦されたらしいのですが卵がかえらず涙をのまれたそうです。石の上にも3年、今年初めて孵化に成功されました。

虫カゴの中には三匹の雄と二匹の雌がいるのですが、朝、夕にはその素晴らしい鳴き声（鳴くのは雄。鳴くと言っても翅をこすり合わせて音を出しています。）を聴かせてくれています。「リーン、リーン。」なんと素晴らしい音だろう。ヴァイオリンの銘器から奏でられる高音が鈴の音にたとえられるのですが、カゴの中の彼らも倍音を十分に含んだかのような美しい音を発します。「すずむし」とは当を得たネーミングだと思います。

コロナが猛威を振るいだして、生徒達も様々な活動が制限されて気分が沈みがちになりがちです。しかし、そんな中でも生活の中でふと気になったものに耳を傾けたり、見たりすることで一時の癒やしを得て、来る朝日祭の成功と勉学の両立を頑張っ

文字でつながる

門間紀子

今年の4月下旬から5月にかけて、休校期間であった。登校日を除いて生徒が学校にいたことがなく、静かで寂しいと思いながら過ごしていた。

しかしながら、この期間は生徒と全く関わりがなく過ごしていたわけではない。登校日に集めた自由英作文の添削やインターネットを通じて生徒から提出された添削依頼や質問への回答など、生徒の顔は見えないけれども、生徒が書いた文字に触れる機会が例年以上に多く得られた。

考えてみると、生徒の顔と名前は一致しなくても、文字の印象を覚えていることが多い。「〇組の〇〇さんが…」という話になった時に、「どんな顔をしていたっけ？でも、きれいな英語を書く子だよなあ。」と思うことがある。（もちろんきれいな文字の生徒ばかり覚えているわけではないが。）9クラス全ての授業には行けないけれど、考査では全クラスの生徒の採点はしていて、答案欄に書かれている文字（英語）と氏名欄に書かれている名前をいつの間にか一致させているのだ。3年間同じ学年の生徒を教えていると、最終的にはかなり多くの生徒の顔と名前は覚えてしまうのだが、まず文字での印象を強く持っていた生徒については、新たに授業や担任として接した時に、「文字のイメージ通りの几帳面な生徒だな」とか「なんだか（文字のイメージで）思っていた印象とは違うな」と勝手な第一印象を持ってしまうこともあ



る。また、添削や考査の採点をしていると、読めないほど薄い文字を書いていたりと、aとoの文字が判別しづらかったりすると、「もっときちんと書いてよ！」と生徒に対してちょっと腹を立ててしまうこともあるのだ。

そういうわけで、休校期間中は生徒が書いた英語や文字を読むことで、生徒と関わり、つながっている気がして、寂しさを少し紛らわすことができた。これからも、対面だけでなく、文字でのつながりも楽しみながら、生徒と接していきたい。

些細な日常のひとこま

高岡 麻衣

年長の長男は、同年代の子と比べ小柄なことを気にしている。「〇〇くんみたいに大きくなりたい！」と意気込みご飯を食べ、「体重増えたかな？」と体重計に乗っては一喜一憂するようになった。私も夫も小柄なので子どもも背が高くはならないだろうと半ば諦めつつも、せめて親以上にはなしてほしいという思いは捨てきれない。息子は、好き嫌いはいらないが食べるのがとても遅い。食事中に満腹感を感じやすく、お腹いっぱいにご飯の途中で諦めそうになることも度々だ。「そんなんじゃ大きくなれんよ！」まくしたて最後まで食べさせていた。保育園では月に1回身体計測がある。息子にとっては自分の日々の頑張りの成果を試される日のようにドキドキするらしい。保育園に迎えに行くと、表情が結果の善し悪しをわかりやすく物語っている。身長と体重を見てあまり増えていないと「あれ？思ったより大きくなってないね？」などつい言ってしまい「ちょっとは大きくなったよ…大きくなったねって言ってくれると思ったのに…」と傷つけてしまうことも何度かあった。息子にとって始めは楽しみだった身体計測の日も、だんだんと不安な日に変わっていったようだ。ある身体計測の日、保育園に向かう車内でしょぼんとした息子が、「…ママ、大きくなってなくても怒らんでな」とボソッと呟いた。いつの間にか、息子の「大きくなりたい」という自発的な思いが、日々の私からの評価やご飯を残せない過剰な圧から「ママが大きくなってほしいと思っているから大きくなりたい」という義務感、親の願いにすり替わってしまっていた。このことにかかわらず、「子どもの希望<親の願い」という不等式になってしまっている。こんなことが日常の中で多いような気がする。息子の日々の頑張りの思いをもっと理解して、少しの伸びでも認め一緒に喜ぶべきだった。むしろ思うように伸びなくても、大丈夫だよ頑張っているねと安心させてあげるべきだった。子どもの頑張ろうとする気持ちを自分が摘んでしまっていたことを反省した。



何気ない些細な日常のひとこまから子どもから学んだり、自分の対応を反省したりすることが日々本当にたくさんある。育児は難しい。「育児は育自」という言葉もあるが、本当にそうだ。言うことも一丁前になってきて、親が試されているな、と自分の未熟さを痛感する場面も増えてきた。たとえ小さくても1人の意思のある人間であり親の所有物ではない。子育ても人間関係をつくっていくことにはかならないということを忘れずに、子どもと一緒に成長していけたら、と思いつつ日々失敗を繰り返している未熟な母だった。